単元の言語活動２
作者の主張を読み取る

活動のねらい

古文でも、現代文でも、文章を読む際に書き手の主張を読み取ることは変わらない。書き手の考えであるか、書き手の思いであるかの違いは生じるが、文種が異なっても主張を読み取ると言うこと自体は変わらない。高校の現代文では文章の長さも長くなり、内容も高度になるため、読解することに注力することになり、文章の構造から主張へと簡単に導けるようなことはなかなかない。いっぽう、古文は長さもさほど長くはなく、内容も平易なものが多いため、文章の構造が見えやすく、作者の主張も分かりやすいことがある。ここでは古文を題材にして、今一度、文章の中で作者がどのような主張を行っているのかを読み取る作業をすることをねらいとする。

タイトル・序文の解説

『徒然草』は序文にあるように多彩な内容を含んでいる。その中に作者の主張を述べている章段もある。単元の教材の中からそのような作者の主張を述べている章段を取り上げ、その章段の構成、つまり作者の主張がどのように展開されているかを読み取り、文章を読む際のポイントを確認していく。文章においては作者の主張が初めに置かれるか、最後に置かれるか、両方に置かれるかで頭括式、尾括式、双括式の三種があると言われている。ここでは頭括式と尾括式を取っている章段を取り上げ、その構成を確認する。

「課題」の解説

課題　**「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」から、それぞれ作者の主張が表れている箇所を読み取り、全体の構成がどのように組み立てられているかを確認し、どちらが分かりやすいか、意見を交換してみよう。**

それぞれの教材を読解しているので、作者の主張がどの部分でなされているかは判断が難しくはないであろう。取り上げる二教材についてそれぞれで作者の主張がなされている部分に傍線を付け、その上でグループを作って傍線の箇所を比べてみる。さらに、二教材における作者の主張の文章内での位置の違いに気づかせ、分かりやすさに違いがあるかどうかについても話し合わせるとよい。これらの作業は文章を読解する場合のみならず、文章を書く際にもこの点を意識することで分かりやすくなる可能性がある。そのような点も指摘しておくとよい。

「活動」の解説

1　筆者のもっとも主張したいことがどこに書かれているか、読み取ってみよう。

①　「亀山殿の御池に」（三〇ページ）で、作者がもっとも主張したいことが読み取れる箇所を抜き出す。

②　「大事を思ひ立たん人は」（三二ページ）で、作者がもっとも主張したいことが読み取れる箇所を抜き出す。

教科書に傍線を引かせる、ワークシートに記入させる等の方法で作者のもっとも主張したい部分を確認する。この教材の場合、

「よろづにその道を知れる者は、やんごとなきものなり。」の部分が該当箇所である。一人一人に作業させ、ペアあるいはグループで該当箇所の確認をする。

②「大事を思ひ立たん人は」（三二ページ）で、作者がもっとも主張したいことが読み取れる箇所を抜き出す。

①と同じ作業をこの教材でも行う。この教材の場合、

「大事を思ひ立たん人は、去りがたく、心にかからんことの本意を遂げずして、さながら捨つべきなり。」

の部分が該当箇所である。この教材についてもそれぞれが選んだ該当箇所を確認しておく。

知技(1)エ

2　本文中で作者の主張がどのように扱われているか、考えてみよう。

①　「亀山殿の御池に」で、作者がもっとも主張したい部分がどの位置に置かれ、全体の構成がどのように組み立てられているか、確認する。

1で確認した箇所は文章全体の末尾に置かれている。文章はまず二つの集団についての「水車」作成の経緯を対比的に記している。これは具体例に当たる。その具体例から導き出される作者の主張を最後に一文の形でまとめて独立させている。「具体例から作者の主張へ」という説明的文章によくある構成となっている。「水車」作りの失敗と成功という分かりやすい例から、それがどのような要因からもたらされるのかを「その道を知れる人」とまとめて主張としている。当時の人は「宇治の里人」とはどのような人たちかを分かっているから即座に理解できるであろうが、それを知らなくても文章の構成から読み取ることができるということに留意させるとよい。分かりやすい文章の書き方の手本のような文章となっている。

②　「大事を思ひ立たん人は」で、作者がもっとも主張したい部分がどの位置に置かれ、全体の構成がどのように組み立てられているか、確認する。

1で確認した箇所は文章の初めに置かれている。そのうえで、「さながら捨つべきもの」とはどのようなものがあるのかを、こちらの教材でも例を挙げて説明している。こちらの例

の挙げ方はやや一般的な例をまず挙げて、それからより具体的な例を挙げていくやり方を取っている。①では対比的な例の挙げ方であったが、こちらでは例を一般から具体へと進めることで理解を深めるようにしている。説明的文章では最後に作者の主張を再確認することも多いが、ここでは最初に主張を置き、例で終わりにしている。①と②とが対照的な構成になっていることに気づかせる。ペア等で話し合わせれば比較的容易にそのようなことが理解されるであろう。

思判表Ｂ⑴ア

▼評価のポイント▲　作者の主張の読み取りは傍線部の確認やワークシートの確認で行う。構成については発表させたり、ワークシートを確認したりすることで行うことができる。その部分をクラス全体で共有したうえで、次の作業に進むとよいだろう。

3

「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」における作者の主張の取り上げ方を比べ、どちらが分かりやすいと思うか、意見を交換してみよう。

日本語の文章の場合は最後が重視される傾向があるので前者の教材を分かりやすいと考える生徒が多いと予想される。いっぽう、英語等では最初に大切なことを述べる傾向があるので、後者のタイプの教材が分かりやすいとされる。別に言語の違いを理由に挙げる必要はないが、なぜ分かりやすいと思うのか、その理由を具体的に示して意見を述べさせることが大切である。それぞれの考えをワークシートに記入させたうえで、前者を分かりやすいとした人に理由を発表させ、次に後者を分かりやすいとした人に発表させるなどすることもできる。ワークシートはそのような活動を想定して、発表者の意見を聞きながらメモできるようにしている。両者の主張を聞いたうえで、改めて自分はどちらが分かりやすいか考えさせるのもよいだろう。そして、意見が変わったかどうか、頭括式から尾括式、尾括式から頭括式のどちらへの移動が多かったかを比べるのもおもしろい。

知技⑴ウ　思判表Ｂ⑴オ　主態

発展的学習としては残りの二教材について構成を考えることもできる。「奥山に猫またといふものありて」は説話的文章ではあるが、ストーリーが語られ、最後にオチが付くというやり方は尾括式に近いものがある。「花は盛りに」では冒頭の「花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。」という作者の主張について具体例をいくつも挙げながら読み手に納得させようと試みている。いわば頭括式とも言えるであろう。また、『徒然草』は比較的平易な章段も多いので、原文に当たりながら、他の章段についても構成を考えてみるような活動も考えられる。

主態

▼評価のポイント▲　ワークシートを使用する場合はそれを提出させることで個人評価ができる。発表させる場合は自主的な発表者に高い評価を与えるようにする。また、自分の考えが変わる、変わらないを理由とともに確認するような別のワークシートを作成すれば、主体的な取り組みについて調べることも可能であろう。

評価規準

〔知識・技能〕⑴ア　言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。
〔知識・技能〕⑴ウ　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。
〔知識・技能〕⑴エ　文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。
〔知識・技能〕⑵イ　古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的文化的背景などを理解している。
〔思考力・判断力・表現力等〕B⑴ア　「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。
〔思考力・判断力・表現力等〕B⑴オ　「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。
〔主体的に学習に取り組む態度〕　進んで『徒然草』に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、今までの学習を生かして、作者の主張を読み取り、批評しようとしている。

◎学習指導要領の言語活動例との関連
〔思考力・判断力・表現力等〕B⑵イ

（畠山　俊）